

「これじゃいかん、マイナンバーカード」

猛暑が続いています但皆さまいかがお過ごしでしょうか。汗を拭きながら地元を回るなか、マイナンバーカードについてご意見を頂くことがよくあります。私の基本的見解は以下のとおりです。

◇マイナンバー「カード」の導入は、不備が多過ぎるので一度立ち止まるべき。

◇マイナンバー「制度」をはじめとする行政の効率化は進めるべき
(日本は後進国レベル)。

◇健康保険証や運転免許証などの行政証明証はいずれ一元化すべき

だが、社会混乱をもたらしてはならない。

別人口座が登録されていて給付金が誤って振り込まれた、自分の情報がきちんと登録されていないなど、問題が次々と報道されるなか、大切な個人情報をこのカードに統合される不安、使い慣れた健康保険証が廃止される不安を伺っています。

一度立ち止まるべきです。問題の原因は、登録事務(多くは外部発注)の粗雑さや、使い方・運用の問題、そもそのシステム設計レベルの課題が重なった複合的なものです。自主返納が増えるなど「国民が信用しないしくみ」は結局普及せず、誰の幸福にも利益にもつながらないことは明らかでしょう。

「マイナンバー、マイナンバーカード、マイナカード、マイナ保険証、マイナポータル」ここまで片仮名が続くと頭がくらくらしてくるのは私だけでしょか。行政の片仮名は、内容が明確でないものを、けむに巻くときに使われることがあります。ここまで問題が噴出した「マイナンバーカード」が言葉の市民権を得るのは容易ではありません。

しっかりと総点検をし、問題を公開して解消していくよう、引き続き政府に求めてまいります。